

4. 主専攻開講授業科目及び授業担当教員一覧

区分	授業科目	年次	単位数		担当教員名
			講義	演習	
共通科目	特別研究（研究計画立案）	1・2		2	栗原幸男、溝淵俊二、奥谷文乃、池内和代、大井美紀、森木妙子、山脇京子、赤松恵美、松岡真里、齋藤美和、濱田佳代子、青木早苗、小松輝子、高橋美美、杉本加代、吉村澄佳、岡田久子、廣野祥子
	特別研究（実験・調査）	1・2		2	〃
	特別研究（ゼミナール）	1・2		2	〃
	特別研究（論文作成）	1・2		2	〃
	特別研究（研究発表）	1・2		2	〃
	課題研究	1・2		6	〃
	健康情報論 ※1	1・2	2		栗原幸男
	保健統計論 ※1	1・2	2		奥谷文乃
	健康環境論 ※1	1・2	2		奥谷文乃
	看護研究論 ※1	1	2		大井美紀、松岡真里、濱田佳代子
	看護理論 ※1	1	2		山脇京子、青木早苗
	看護倫理 ※1	1	2		森木妙子、下田真梨子
	ペアレンティング学 ※1	1・2	2		池内和代、松岡真里
	看護英語 ※1	1・2	2		植田味佐(非)
看護政策論	1・2	2		池内和代	
病態生理学	1・2	2		溝淵俊二、青木早苗	
看護教育・看護管理学分野科目	看護教育・管理学特論Ⅰ	1・2	2		山脇京子、岡田久子
	看護教育・管理学特論Ⅱ	1・2	2		池内和代、森木妙子、下田真梨子
	看護教育・管理学演習	1・2	2		森木妙子、山脇京子
	保健医療情報学演習	1・2	2		栗原幸男
成人・老人看護学分野科目	成人・老人看護学特論Ⅰ	1・2	2		溝淵俊二、山脇京子、青木早苗、林昌子、寺下憲一郎
	成人・老人看護学特論Ⅱ	1・2	2		大井美紀、齋藤美和、杉本加代、廣野祥子
	成人・老人看護学演習	1・2	4		大井美紀、山脇京子、齋藤美和、青木早苗、杉本加代、廣野祥子、寺下憲一郎
母子看護学分野科目	母子看護学特論Ⅰ	1・2	2		(母性看護)池内和代、赤松恵美 (小児看護)松岡真里
	母子看護学特論Ⅱ	1・2	2		(母性看護)池内和代、植田味佐(非) (小児看護)松岡真里
	母子看護学演習	1・2	4		(母性看護)池内和代、赤松恵美、小松輝子、濱田佳代子、吉村澄佳 (小児看護)松岡真里

区分	授 業 科 目	年 次	単位数		担 当 教 員 名
基礎助産学 科目	母子看護学特論Ⅰ ※2	1・2	2		
	母子看護学特論Ⅱ ※2	1・2	2		
	助産学特論	1	1		池内和代、小松輝子
	ウイメンズヘルス論	1	1		濱田佳代子
助産学実践 科目	助産診断・技術学基礎	1	1		溝渕俊二、池内和代
	助産診断・技術学特論Ⅰ	1	1		池内和代、小松輝子、杉本加代
	助産診断・技術学特論Ⅱ	1	1		赤松恵美、松岡真里、吉村澄佳
	助産診断・技術学演習	1		3	池内和代、赤松恵美、小松輝子、濱田佳代子
	周産期ハイリスク論	1	1		池内和代、赤松恵美、小松輝子
	周産期医療システム論	1	1		池内和代、栗原幸男、奥谷文乃
	母子精神病理学	1	1		小松輝子
	コンサルテーション論	1	1		池内和代
	助産学実習Ⅰ ※3	1		2	池内和代、赤松恵美、小松輝子
	助産学実習Ⅱ ※3	2		7	池内和代、赤松恵美、小松輝子
地域助産学実習	2		4	池内和代、赤松恵美、小松輝子	
助産学関連 科目	地域母子保健診断学	1	1		池内和代
	助産管理学	1	2		池内和代

特別研究（計10単位）または課題研究のいずれかを選択する。

※1は、開放科目（他専攻学生の履修を認める科目）

※2は、他区分との重複科目

※3は、男子の履修不可

二重線：当該授業の担当主任教員

※ 時限について

1時限	8：50～10：20
2時限	10：30～12：00
3時限	13：10～14：40
4時限	14：50～16：20
5時限	16：30～18：00
6時限	18：10～19：40
7時限	19：50～21：20

特 別 研 究

到達目標

大学院で学んだ科目の成果をふまえ、自己の研究テーマについて教員と論議を行い、研究計画書を作成する。そして、倫理的な配慮のもと根拠に基づいた研究方法・成果をふまえて論文を完成し発表する一連の研究プロセスを修得する。

特別研究（研究計画立案）

- ・課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる。
- ・研究テーマに関する文献レビューし、研究課題を位置づけられる。
- ・研究枠組みおよび概念枠組みを明確にできる。
- ・研究テーマに適した研究方法を選択できる。
- ・配慮すべき倫理的な事項を列挙できる。
- ・研究計画書を決められた形式で作成できる。

特別研究（実験・調査）

- ・研究計画書にそって、具体的に実験・調査を設定できる。
- ・実験・調査を実際に行う中で、必要な技術を修得する。
- ・研究の信頼性、妥当性を確保するための事項を理解している。
- ・当該実験・調査の限界と課題を理解している。
- ・実験・調査のデータ分析が適切に行える。
- ・実験・調査から得られた結果を検討し、新しい知見を抽出できる。

特別研究（ゼミナール）

- ・研究課題を分かり易く説明できる。
- ・研究の問題点を他者と議論し、深められる。
- ・ゼミでの他者の意見を参考に、研究方法等の改善ができる。

特別研究（論文作成）

- ・基本的な論文構成（緒言・研究方法・結果・考察・結語・引用文献）に従って、論文を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く、正確に記述できる。
- ・研究の論理を明確に記述できる。
- ・倫理上の配慮した記述ができる。

特別研究（研究発表）

- ・発表要旨・抄録を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く表現したスライドおよび発表原稿を作成できる。
- ・発表時間内で分かり易く研究内容を説明できる。
- ・質問の意図を理解しようと努める。
- ・質問に対して、適切な回答をするように努める。

課 題 研 究

到達目標

医療の場を含む人々の健康的な生活の場で生じる諸々の現象をふまえて、主専攻と「看護学の発展」の視座から課題を探求し、教員の指導のもとに論文を作成する。

課題研究（研究計画立案） 2単位

- ・課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる
- ・テーマに関する文献検索し、研究課題を位置づけられる
- ・研究テーマに適した研究方法を選択できる
- ・配慮すべき倫理的な事項を列挙できる
- ・研究計画書を決められた形式で作成できる

課題研究（調査・ゼミナール） 2単位

- ・研究計画書にそって具体的の実験・調査を設定できる
- ・研究の信頼性・妥当性を確保するための事項を理解している
- ・実験・調査のデータ分析が適切に行える
- ・研究の問題・課題を他者と議論し深められる
- ・ゼミナールで他者の意見を参考に研究方法などの改善ができる

課題研究（論文作成・発表） 2単位

- ・基本的な論文構成（緒言、研究方法、結果、考察、結語、引用文献）に従って論文を作成できる
- ・論理的で一貫性がある論文を作成できる
- ・倫理的に配慮した記述ができる
- ・発表要旨や抄録を作成できる
- ・研究内容をわかりやすく発表できる
- ・質問に対して適切な回答をすることができる

授業コード	16701	授業科目名	健康情報論			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	月・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○栗原 幸男 (基礎看護学講座) (880-2524, kurihary@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	事前に予約をとること。						
学生の相談場所	保健医療情報学教室						
履修希望学生に求めるもの	保健・医療情報の活用に意識的に関心を持つこと						
キーワード	保健医療情報学、ICT活用、情報化						
科目の目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関わる情報の特性を理解する。 ・健康支援に必要な保健・医療の情報化を理解する。 ・保健・医療における情報化の状況を理解する。 ・健康支援のための保健・医療情報の活用の視点を理解する。 						
授業計画	1回 オリエンテーション 各自ノートPCのネットワーク接続設定 (各自ノートPCを持参すること) 2回 健康に関わる情報の特性 3回 健康支援に必要な保健・医療のICT活用 4回 同上 5回 保健・医療における情報化の変遷 6回 同上 7回から14回 保健・医療におけるICT活用に関する各自の関心テーマについての発表と討論 15回 健康情報論を考える (まとめ)						
成績評価方法	各自の発表と討論への寄与度で評価する。						
教科書・参考図書	1. Marion J. Ball, Kathryn J. Hannah and etc. Health Informatics: Nursing Informatics. Springer. 2. 日本医療情報学会医療情報技師部会. 医療情報第2版 医療情報システム編. 篠原出版新社. 3. Rita D. Zielstorff (編)、西垣 克 (監訳). 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.						
履修上の注意	毎回の授業参加が成績評価になって行くので、出席に努めること。						

授 業 日 程 表

授業科目：健康情報論

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月17日	月	6	オリエンテーション 各自ノートPCのネットワーク接続設定 (各自ノートPCを持参すること)	栗原幸男	看護学科棟保健指導室(2階)
2	4月17日	月	7	健康に関わる情報の特性	同上	
3	4月24日	月	6	健康支援に必要な保健・医療のICT活用	同上	
4	4月24日	月	7	同上	同上	
5	5月1日	月	6	保健・医療における情報化の変遷	同上	
6	5月1日	月	7	同上	同上	
7	5月8日	月	6	保健・医療におけるICT活用に関する各自の 関心テーマについての発表と討論	同上	
8	5月8日	月	7	同上	同上	
9	5月15日	月	6	同上	同上	
10	5月15日	月	7	同上	同上	
11	5月22日	月	6	同上	同上	
12	5月22日	月	7	同上	同上	
13	5月29日	月	6	同上	同上	
14	5月29日	月	7	同上	同上	
15	未定	月		健康情報論を考える(まとめ)	同上	

授業コード	16702	授業科目名	保健統計論			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	月・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○奥谷 文乃 (地域看護学講座) (880-2560, okutanif@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	アポイントメントがあれば、いつでも可						
学生の相談場所	看護学科4階 教員研究室						
履修希望学生に求めるもの	ノートパソコンの基本的な操作に慣れておくこと						
キーワード	量的研究、データ解析、有意差						
科目の目標 (到達目標)	1. 看護研究で用いられる基本的な統計処理方法を理解する 2. データの種類に応じて適切な統計処理方法を決定できる 3. 看護研究論文を読んで実際に使われている統計処理方法から内容を正しく理解する						
授業計画	講義は看護学科4階 地域・在宅共同研究室で行う (人数が多くて入りきらないときは4階 実習室とする) 1. 10月 2日 (月) 6限 統計処理方法の種類 2. 10月 2日 (月) 7限 代表値の種類と正規分布 3. 10月16日 (月) 6限 Excelの基本的操作方法 4. 10月16日 (月) 7限 比の検定法— χ^2 検定 5. 10月23日 (月) 6限 平均の検定法—ANOVAと t 検定 6. 10月23日 (月) 7限 ヒストグラムの書き方 7. 10月30日 (月) 6限 看護研究論文の選択 I 8. 10月30日 (月) 7限 看護研究論文の選択 II 9. 11月 6日 (月) 6限 ノンパラメトリック手法—Mann-Whitney U テスト 10. 11月 6日 (月) 7限 ノンパラメトリック手法—Wilcoxon符号順位検定 11. 11月13日 (月) 6限 看護研究論文における統計手法の実際 I 12. 11月13日 (月) 7限 看護研究論文における統計手法の実際 II 13. 11月20日 (月) 6限 看護研究論文における統計手法の実際 III 14. 11月20日 (月) 7限 看護研究論文における統計手法の実際 IV 15. 11月27日 (月) 6限 看護研究論文における統計手法の実際 V						
成績評価方法							
教科書・参考図書	適宜指定する						
履修上の注意	Microsoft Officeがインストールされたノートパソコンが必携						

授業コード	16703	授業科目名	健康環境論			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	月・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○奥谷 文乃（地域看護学講座）（880-2560, okutanif@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー	アポイントメントがあれば、いつでも可						
学生の相談場所	看護学科4階 教員研究室						
履修希望学生に求めるもの	臨床の現場で感じた疑問を大切にすること						
キーワード	生理学、ホメオスターシス、病態生理						
科目の目標（到達目標）	1) ホメオスターシスの概念を理解する 2) 生体の二大調節系である、内分泌性および神経性調節機構を理解する 3) 環境の変化を察知する感覚機能を理解する						
授業計画	講義は看護学科4階 地域・在宅共同研究室で行う 1) 11月27日（月）7限 ホメオスターシスとは 2) 12月 4日（月）6限 生体の二大調節系について 3) 12月 4日（月）7限 神経細胞の基本的機能と神経系の解剖 4) 12月11日（月）6限 自律神経性調節Ⅰ 5) 12月11日（月）7限 自律神経性調節Ⅱ 6) 12月18日（月）6限 自律神経性調節Ⅲ 7) 12月18日（月）7限 内分泌調節Ⅰ 8) 12月25日（月）6限 内分泌調節Ⅱ 9) 12月25日（月）7限 内分泌調節Ⅲ 10) 1月15日（月）6限 内分泌調節Ⅳ 11) 1月15日（月）7限 酸塩基平衡 12) 1月22日（月）6限 感覚機能Ⅰ 13) 1月22日（月）7限 感覚機能Ⅱ 14) 1月29日（月）6限 感覚機能Ⅲ 15) 1月29日（月）7限 感覚機能Ⅳ						
成績評価方法							
教科書・参考図書	これまでに用いた生理学の教科書						
履修上の注意	ノートをとることが多いので、筆記用具を持参すること						

授業コード	16704	授業科目名	看護研究論			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	月・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○大井美紀（臨床看護学講座）088-880-2554 mikioi@kochi-u.ac.jp 松岡真里（臨床看護学講座）088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp 濱田佳代子（臨床看護学講座）088-880-2757 kayoko-h@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	月曜日5時間目 事前に予約をしてください。						
学生の相談場所	大井（6階大井研究室） 松岡（5階松岡研究室） 濱田（5階濱田研究室）						
履修希望学生に求めるもの	日々の実践において、疑問、関心があることについて、さらによりよい実践へと発展させるためにどのような課題があるか、常に問題意識をもつこと。 関心領域について、主体的に、文献の活用や論文のクリティークなどに取り組むこと。						
キーワード	看護研究、研究倫理、研究方法、文献検討、批判的吟味（クリティーク）						
科目の目標（到達目標）	1) 看護研究の意義について述べることができる。 2) 看護研究方法の種類と概略を述べることができる。 3) 看護研究における倫理的配慮について述べることができる。 4) 看護の研究論文のクリティークに主体的に参加し、研究の枠組み、研究方法、論文作成に関する問題点を示すことができる。						
授業計画	下記の予定で行う 1. 看護研究の意義と役割 2. 看護研究のプロセスの理解及び倫理的課題の理解 3. 4. 文献検索演習 I（和文献） 5. 6. 文献検索演習 II（英文献）＋文献複写方法など 7. 8. 量的研究（調査研究） 9. 10. 量的研究（研究デザイン1/準実験（介入）研究） 11. 質的研究 12. アクションリサーチ 13. 14. 15. 文献クリティーク						
成績評価方法	授業における参加姿勢、プレゼン、レポート等を総合的に評価する						
教科書・参考図書	【参考図書】 南裕子（2008）看護における研究. 日本看護協会出版会 D.F. ポーリット&G.T. ベック著. 近藤潤子監訳（2010）看護研究 原理と方法第2版 S.K. グローブ, N. バーンズ著. 黒田裕子監訳（2015）バーンズ&グローブ看護研究入門 原著第7版 坂下玲子（2016）看護研究. 医学書院 筒井真優美（2010）アクションリサーチ入門. ライフサポート社						
履修上の注意	上記参考図書は、自主的に講読してください。授業テーマに沿って必要な資料・文献を読み、討論ができるように準備して授業に臨んでください。						

授 業 日 程 表

授業科目：看護研究論

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所	
1	6月12日	月	6	看護研究の意義と役割	松岡	保健 指導室	
2	6月12日	月	7	看護研究のプロセスの理解及び倫理的課題の理解	松岡		
3	6月19日	月	6	文献検索演習 I (和文献)	濱田、 図書館司書	情報 処理室	
4	6月19日	月	7		大井、 図書館司書		
5	6月26日	月	6	文献検索演習 II (英文献) +文献複写方法など	大井		
6	6月26日	月	7		図書館司書		
7	7月3日	月	6	量的研究 (調査研究 I)	濱田		保健 指導室
8	7月3日	月	7	量的研究 (調査研究 II)	濱田		
9	7月10日	月	6	量的研究 (研究デザイン/準実験研究)	大井		
10	7月10日	月	7	量的研究 (準実験 (介入) 研究)	大井		
11	7月24日	月	6	質的研究	松岡		
12	7月24日	月	7	アクションリサーチ	松岡		
13	7月31日	月	6	文献クリティーク	全員		
14	7月31日	月	7	文献クリティーク	全員		
15	8月7日	月	6	文献クリティーク	全員		

*8/7日程調整する場合があります

授業コード	16705	授業科目名	看護理論			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	火・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○山脇 京子 (臨床看護学講座) (880-2531, y-kyou@kochi-u.ac.jp) 青木 早苗 (臨床看護学講座) (880-2555, saoki@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	火曜日6限 (事前連絡要)						
学生の相談場所	成人看護学 (7階) 共同研究室						
履修希望学生に求めるもの	学びを臨床現場や教育・研究に活用できるように理解を深めてください。						
キーワード	看護理論、哲学、大理論、中範囲理論						
科目の目標 (到達目標)	1. 看護学における看護理論の位置づけを学び、これまでに開発された諸理論について理解する。 2. 看護実践の中で応用可能な中範囲理論と基礎となる広範囲理論の概念について理解し、活用法について説明できる。 3. 学生の看護実践の具体的現象を取り上げ、理論を用いて説明できる。						
授業計画	1. 看護理論・概念 2. 看護学の知の構築 3. 看護理論の発展、実践・教育・研究における看護理論の重要性 4. 看護における理論開発 5. 看護理論の範囲と実践への活用 6. 概念分析 7. クリティーク (2) discussion 8. 理論分析 (哲学: ベナー、ジーン・ワトソン) 9. 理論分析 (大理論: オレム、ベティ・ニューマン) 10. 理論分析 (中範囲理論: ボウルビー) 11. 理論分析 (中範囲理論: キャサリン・コルカバト) 12. 理論分析 (中範囲理論: M・H・ベッカー) 13. 看護実践の理論への適用						
成績評価方法	gani						
教科書・参考図書	使用教科書 1. Ann Marriner-Tomey 都留伸子監訳: Nursing Theorists And Their Work 看護理論家とその業績第3版、医学書院、2004. 参考書 1. Julia B. George 南裕子他訳: NURSING THEORIES TheBase for Professional Nursing Practice 看護理論集 日本看護協会出版会、2003.						
履修上の注意	ディスカッションが深まるよう、プレゼンテーションの理論について理解して授業に臨んでください。						

授 業 日 程 表

授業科目：看護理論

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	6月13日	火	6	ガイダンス	山脇	成人看護学（7階） 共同研究室
2	6月13日	火	7	看護理論・概念とは	山脇	
3	6月20日	火	6	看護学の総合的な知の構築	山脇	
4	6月20日	火	7	看護理論の発展、実践・教育・研究における看護理論の重要性	山脇	
5	6月27日	火	6	看護における理論開発	山脇	
6	6月27日	火	7	看護理論の範囲と実践への活用	山脇	
7	7月4日	火	6	概念分析（講義）	山脇・青木	
8	7月4日	火	7	概念分析（講義）	山脇・青木	
9	7月11日	火	6	概念分析（演習）	山脇・青木	
10	7月11日	火	7	概念分析（演習）	山脇・青木	
11	7月18日	火	6	理論分析（1）哲学（ベナー、ジーン・ワトソン）：発表・討議	山脇・青木	
12	7月18日	火	7	理論分析（2）大理論（オレム、ベティ・ニューマン）：発表・討議	山脇・青木 ・寺下	
13	7月25日	火	6	理論分析（3）中範囲理論（ポウルピイ）：発表・討議	山脇・青木	
14	7月25日	火	7	理論分析（4）中範囲理論（コンフォート理論）発表・討議	山脇・青木	
15	8月1日	火	6	理論分析（5）中範囲理論（ヘルスプロモーションモデル）：発表・討議	山脇・青木	

授業コード	16706	授業科目名	看護倫理			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	金・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○森木 妙子(基礎看護学講座) (088-880-2558, morikita@kochi-u.ac.jp) 下田真梨子(基礎看護学講座) (088-880-2552, s-mariko@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	水・木						
学生の相談場所	森木研究室						
履修希望学生に求めるもの	倫理分析ができる						
キーワード	倫理的ジレンマ、倫理指針、倫理分析、研究の倫理						
科目の目標(到達目標)	1. 看護職者の実践活動に活かすための、看護倫理をめぐる議論と看護に関連する倫理綱領/規定並びに倫理分析の手法に関する知識を修得する。 2. 看護研究に関する倫理の重要性を理解し、原則に従って配慮できる能力を身につける。						
授業計画	1) 生命倫理と看護倫理, 倫理が問われ始めた歴史的背景 2) 倫理原則 3) 臨床における身近な倫理的問題 4) 倫理分析の手法(1) 5) 倫理分析の手法(2) 6) 身近な倫理的問題の分析の実際(1) 7) 身近な倫理的問題の分析の実際(2) 8) 身近な倫理的問題の分析の実際(3) 9) 看護研究の倫理(1) 倫理審査体制と倫理審査を受ける立場と行う立場 10) 看護研究の倫理(2) 倫理指針、行動規範 11) 看護研究の倫理(3) ミスコンダクトとその防止 12) 看護研究の倫理(4) 質的研究のプロセスにおける倫理 13) 看護研究の倫理(5) 量的研究のプロセスにおける倫理 14) 看護研究の倫理(6) 発表の倫理						
成績評価方法	クラスへの貢献度、討議への参加度						
教科書1) 参考図書2)~7)	1) 橋本和子: これからの看護倫理学、ふくろう出版、2014 2) 赤林朗他: 臨床倫理学 第5版 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ、新興医学出版社、2006. 3) 宮坂道夫: 医学倫理の方法—原則、手法、ナラティブ、医学書院、2011. 4) サラT. フライ著、片田範子、山本あい子訳: 看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド、日本看護協会出版会、2002. 5) シーア・コルボーン他著、長尾力訳: 奪われし未来、翔泳社、2004. 6) 杉谷藤子他: ケアを深める看護倫理の事例検討、日本看護協会出版会、2011. 7) 玉腰暁子他: 医療現場における調査研究倫理ハンドブック、医学書院、2011.						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議ができるように準備をして授業に臨みましょう						

授 業 日 程 表

授業科目：看護倫理

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月14日	金	6	生命倫理と看護倫理、倫理が問われ始めた歴史的背景	森木妙子	3階基礎看護学講座共同研究室
2	4月14日	金	7	倫理原則	森木妙子	
3	4月21日	金	6	臨床における身近な倫理的問題	森木妙子	
4	4月21日	金	7	倫理分析の手法（1）	森木妙子	
5	4月28日	金	6	倫理分析の手法（2）	森木妙子	
6	4月28日	金	7	身近な倫理的問題の分析の実際（1）	下田真梨子	
7	5月12日	金	6	身近な倫理的問題の分析の実際（2）	下田真梨子	
8	5月12日	金	7	身近な倫理的問題の分析の実際（3）	下田真梨子	
9	5月19日	金	6	看護研究の倫理（1）倫理審査体制と倫理審査を受ける立場と行う立場	森木妙子	
10	5月19日	金	7	看護研究の倫理（2）倫理指針、行動規範	森木妙子	
11	5月26日	金	6	看護研究の倫理（3）ミスコンダクトとその防止	森木妙子	
12	5月26日	金	7	看護研究の倫理（4）質的研究のプロセスにおける倫理	森木妙子	
13	6月2日	金	6	看護研究の倫理（5）量的研究のプロセスにおける倫理	森木妙子	
14	6月2日	金	7	看護研究の倫理（6）発表の倫理	森木妙子	
15	6月9日	金	6	まとめ	森木妙子	

授業コード	16707	授業科目名	ペアレンティング学			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	金・6
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523 kazuyo@kochi-u.ac.jp 松岡真里（臨床看護学講座）088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	金曜日5時間目 事前に予約をしてください。						
学生の相談場所	看護学科5階 池内研究室および松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	ゼミ形式での授業を展開するため、文献を読み知識を得ると同時に、自身の体験している実践上の課題を分析し、まとめ、他者に伝える力が求められます。また、【必読書】のうち、1冊は必ず講読しておくこと。						
キーワード	親子、家族理論、育児、ペアレンティング						
科目の目標（到達目標）	【目的】 1) 人のライフサイクルのなかで、「親」そして、「家族」になる過程にある人を理解し支える上で役立つ諸理論及び家族看護学を学ぶ。 2) 子どもの命が尊重され、一人の人として健やかに育つ社会を育成するために現代の諸問題および次世代育成や家族支援の方法を理解し、「Parenting」とは何かを追究する。						
授業計画	1 授業の概要説明：人間のライフサイクルにおける「親になる」過程にある人を支える母子看護の役割の検討 2-3 現在の「子ども」「親」「祖父母」世代を取り巻く社会環境の変容と課題 4-5 家族看護学に関連する諸理論の理解とその活用① 家族発達理論と家族役割に関する理論 6-7 家族看護学に関連する諸理論の理解とその活用② 家族ストレス理論と家族システム理論 8-9 「親になる」過程にある人を支える看護の役割① 学童期、思春期にある対象の理解と求められる支援と課題 10-11 「親になる」過程にある人を支える看護の役割② 妊娠期、産褥期、子育て期にある対象の理解と求められる支援と課題 12-13 それぞれが考える「Parenting：ペアレンティング」とそれを支える看護の役割① 14-15 それぞれが考える「Parenting：ペアレンティング」とそれを支える看護の役割②						
成績評価方法	授業への出席、学習内容、プレゼンテーション等によって総合的に評価する						
教科書・参考図書	【必読書】 ジョイ・ベルスキー、ジョン・ケリー著、安次嶺佳子訳：子供をもつと夫婦に何が起こるか。草思社 C. コーワン、P. コーワン著、山田昌弘訳：カップルが親になるとき。勁草書房 ダニエル・N・スターン、ナディア・B・スターン著、北村婦美訳：母親になるということ 新しい「私」の誕生。創元社 【参考図書】 C Betz, M Hunsberger, S Wright:Family-Centered Nursing Care of Children 2nd. Ed. W Votroubek & A Tabacco:Pediatric Home Care for Nurses A Family-Centered Approach 3rd. ED. 鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第3版 日本看護協会出版会 上田礼子：生涯人間発達学 改定第2版増補版 三輪書店 野嶋佐由美：家族エンパワーメントをもたらす看護実践 へるす出版						
履修上の注意	第一回目の日程及びその後の詳細な日程は、後日提示します。						

授業コード	16708	授業科目名	看護英語			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	木・6
担当教員	○印は担当責任者 ○植田 味佐						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	医療及び看護用語・グローバルな視点						
科目の目標 (到達目標)	看護及び医療に関する研究論文について数多く購読し、グローバルな視点を持ちながら、基本的な医学・看護用語の習得と基礎的な英語読解力を強化し、自らの専門領域の英語論文を読みこなす力をつける。また、修士論文研究作成に必要な英語力全般の能力を培う。						
授業計画	1-15 Developments in the world *平成29年10月5日(木)～平成30年2月1日(木)までの15回を予定						
成績評価方法	出席, プレゼンテーション, 等による評価						
教科書・参考図書	教科書及び参考書等 1) www.voanews.com/specialenglish/ 2) Longman Dictionary of Contemporary English						
履修上の注意							

授 業 日 程 表

授業科目：看護英語

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	10月5日	木	6	Current topics in pediatric maternal nursing	植田 味佐	看護学科棟母性共同研究室・5階
2	10月12日	木	6	同上	植田 味佐	
3	10月19日	木	6	同上	植田 味佐	
4	10月26日	木	6	同上	植田 味佐	
5	11月2日	木	6	同上	植田 味佐	
6	11月9日	木	6	同上	植田 味佐	
7	11月16日	木	6	同上	植田 味佐	
8	11月30日	木	6	同上	植田 味佐	
9	12月7日	木	6	同上	植田 味佐	
10	12月14日	木	6	同上	植田 味佐	
11	12月21日	木	6	同上	植田 味佐	
12	1月11日	木	6	同上	植田 味佐	
13	1月18日	木	6	同上	植田 味佐	
14	1月25日	木	6	同上	植田 味佐	
15	2月1日	木	6	同上	植田 味佐	

授業コード	16709	授業科目名	看護政策論			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	木・7
担当教員	○印は担当責任者 ○池内 和代 (基礎看護学講座) (088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟5階 母性共同研究室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	看護政策 プロポーザル						
科目の目標 (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 最新の医療、看護、福祉の政策的動向について理解する。 看護現場における看護政策上の諸問題について抽出し、その政策上の問題解決のためにエビデンスに基づいた提言案を作成し説明できる。 看護専門職として専門能力を発揮し、責務を果たすために政策策定に参加することの意義を理解する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> H29. 10. 5 (木) 授業の概要・オリエンテーション 政策とは何か 10. 12 (木) 企画書の作成方法を考える (1) 10. 17 (火) 最新の医療、看護、福祉の政策的動向 10. 24 (火) 看護制度と政策決定過程 —立法のしくみ— 11. 2 (木) 企画書の作成方法を考える (2) 11. 9 (木) 企画書の作成方法を考える (3) 11. 16 (木) 個人ワークの進め方 文献からみる看護現場の課題から看護政策提案に繋がったプロポーザルの事例 11. 30 (木) 個人ワーク 12. 7 (木) 個人ワーク 12. 14 (木) プレゼンテーション (中間) 12. 21 (木) 個人ワーク H30. 1. 11 (木) 個人ワーク 1. 18 (木) 個人ワーク 1. 25 (木) プレゼンテーション・ディスカッション 2. 1 (木) プレゼンテーション・ディスカッション 						
成績評価方法	授業への参加姿勢、プレゼンテーション、レポート等を総合的に評価する						
教科書・参考図書	参考書 <ol style="list-style-type: none"> 井部俊子他：看護管理学習テキスト 第2版 看護制度・政策論、日本看護協会出版会、2011. 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、日本看護協会出版会、2007. 						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議できるように準備をして授業に臨みましょう						

授 業 日 程 表

授業科目：看護政策論

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	10月5日	木	7	授業の概要・オリエンテーション 政策とは何か	池内和代	看護学科棟母性共同研究室・5階
2	10月12日	木	7	相手に伝わる企画案作成 (1)	同上	
3	10月17日	火	7	最新の医療、看護、福祉の政策的動向	看護協会長 宮井千恵	
4	10月24日	火	7	看護制度と政策決定過程 —立法のしくみ—	弁護士 岩崎淳司	
5	11月2日	木	7	相手に伝わる企画案作成 (2)	池内和代	
6	11月9日	木	7	相手に伝わる企画案作成 (3)	同上	
7	11月16日	木	7	個人ワーク	同上	
8	11月30日	木	7	個人ワーク	同上	
9	12月7日	木	7	個人ワーク	同上	
10	12月14日	木	7	中間プレゼンテーション	同上	
11	12月21日	木	7	個人ワーク	同上	
12	1月11日	木	7	個人ワーク	同上	
13	1月18日	木	7	プレゼンテーション・ディスカッション (1)	同上	
14	1月25日	木	7	プレゼンテーション・ディスカッション (2)	同上	
15	2月1日	木	7	プレゼンテーション・ディスカッション (3)	同上	

授業コード	16710	授業科目名	病態生理学			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	木・6
担当教員	○印は担当責任者 ○溝渕 俊二 (臨床看護学講座) (Email: mizoshun@kochi-u.ac.jp) 青木 早苗 (臨床看護学講座) (Email: saoki@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー							
学生の相談場所	看護学科棟7階奥から2番目溝渕教員室、4番目青木教員室						
履修希望学生に求めるもの	特になし						
キーワード	解剖学、生理学、病態学、看護実践						
科目の目標 (到達目標)	科目の目標： 主要な症候の病態生理を学習し、患者の病態生理を踏まえた上で、高度な看護実践ができるための基礎的能力を養う。 到達目標： 1. 主たる症候の病態生理が理解できる。 2. 学習内容を活用して、事例の病態関連図を作成し、説明できる。 3. 事例について病態を踏まえた看護援助の方向性が説明できる。						
授業計画	1. 呼吸障害 (担当教員 溝渕) 2. 呼吸不全と呼吸管理 (担当教員 溝渕) 3. 循環障害 (担当教員 溝渕) 4. 循環器疾患の病態と管理 (担当教員 溝渕) 5. 心不全の病態と管理 (担当教員 溝渕) 6. 代謝・内分泌障害 (担当教員 溝渕) 7. 消化器・肝機能障害 (担当教員 溝渕) 8. 栄養管理 (担当教員 溝渕) 9. 体液不均衡 (担当教員 溝渕) 10. 感染・炎症 (担当教員 溝渕) 11. 血液疾患の病態と管理 (担当教員 溝渕) 12. 事例展開 (担当教員 青木・溝渕) 13. 事例展開 (担当教員 青木・溝渕) 14. 事例展開 (担当教員 青木・溝渕) 15. 事例展開 (発表) (担当教員 青木・溝渕)						
成績評価方法	出席、プレゼンテーション、課題レポート等						
教科書・参考図書	田中 越郎：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学, 医学書院						
履修上の注意	履修者は、初回（平成29年4月13日（木））溝渕教員室に来てください。						

授業コード	16801	授業科目名	看護教育・管理学特論 I			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年度	開講時期	第1学期	曜日・時限	火・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○山脇京子（臨床看護学講座 088-880-2531. y-kyou@kochi-u.ac.jp） 岡田久子（基礎看護学講座）088-880-2552. hisako-o@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	山脇・岡田（水曜日6限目：事前連絡要）						
学生の相談場所	山脇（7階山脇研究室）岡田（3階岡田研究室）						
履修希望学生に求めるもの	日々の実践において、更によりよい実践へと発展できるように課題意識をもつこと、また、文献の活用やクリティークなど、教育への関心を高めておくこと						
キーワード	看護教育学、看護教育課程、看護継続教育、看護教育方法						
科目の目標（到達目標）	1) 看護教育学とは何か、その概念と、看護学教育制度や看護教育課程、看護教育方法・評価について、歴史や社会背景をふまえて探求すると共に課題が検討できる 2) 看護の質を向上するための、看護継続教育の取り組みについて課題が検討できる						
授業計画	1. 看護教育学の概念（看護教育学とは、看護基礎教育と卒後教育） 2. 看護教育制度（看護教育制度並びにカリキュラムの変遷） 3. 看護教育課程（カリキュラム概念、教育目的・目標） 4. 看護教育課程（カリキュラム構成と内容） 5. 看護学教育授業展開1（学習理論、学習レディネス） 6. 看護学教育授業展開2（授業形態、教育方法） 7. 看護学教育授業展開3（指導案の意義と立案の方法） 8. 臨地実習教育と学習（看護学実習の特質と指導、経験型学習理論） 9. 看護学教育評価（教育評価の意義と機能、評価方法） 10. 看護継続教育論1（生涯学習、成人学習） 11. 看護継続教育論2（FD） 12. 看護継続教育論3（施設内教育プログラム） 13. 看護継続教育論4（施設外教育プログラム） 14. 看護教育方法論（プレゼンテーション） 15. まとめ						
成績評価方法	授業における参加姿勢、プレゼン、レポート等を総合的に評価する						
教科書・参考図書	講義において適宜紹介する						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議ができるように準備をして授業に臨みましょう						

授 業 日 程 表

授業科目：看護教育・管理学特論 1

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月18日	火	6	看護教育学の概念（看護教育学とは、看護基礎教育と卒後教育）	山脇	成人看護学（7階）の共同研究室・基礎看護学（3階）の共同研究室
2	4月18日	火	7	看護教育制度（看護教育制度並びにカリキュラムの変遷）	山脇	
3	4月25日	火	6	看護教育課程（カリキュラム概念・教育目的・目標）	山脇	
4	4月25日	火	7	看護教育課程（カリキュラム構成と内容）	山脇	
5	5月2日	火	6	看護学教育授業展開 1（学習理論、学習レディネス）	岡田	
6	5月2日	火	7	看護学教育授業展開 2（授業形態、教育方法）	岡田	
7	5月9日	火	6	看護学教育授業展開 3（指導案の意義と立案の方法）	岡田	
8	5月9日	火	7	臨地実習教育と学習（看護学実習の特質と指導、経験型学習理論）	岡田	
9	5月16日	火	6	看護学教育評価（教育評価の意義と機能、評価方法）	岡田	
10	5月16日	火	7	看護学教育授業展開まとめ（作成した指導案の発表）	岡田	
11	5月23日	火	6	看護継続教育論 1（生涯学習、成人学習）	山脇	
12	5月23日	火	7	看護継続教育論 2（教育FD）	山脇 岡田	
13	5月30日	火	6	看護継続教育論 3（施設内教育プログラム）	原田	
14	5月30日	火	7	看護継続教育論 4（施設外教育プログラム）	原田	
15	6月6日	火	6	まとめ（プレゼンテーション）	山脇 岡田	

授業コード	16803	授業科目名	看護教育・管理学特論Ⅱ			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	水・6,7
担当教員	○印は担当責任者 池内和代（基礎看護学講座）（088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp） ○森木妙子（基礎看護学講座）（088-880-2558, morikita@kochi-u.ac.jp） 下田真梨子（基礎看護学講座）（088-880-2552, s-mariko@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー	水・木						
学生の相談場所	森木研究室 下田研究室						
履修希望学生に求めるもの	看護管理に関する文献検索						
キーワード	看護管理者、管理能力、人的資源管理、質保証						
科目の目標（到達目標）	1. 看護管理の基本となる諸理論および看護管理過程のあり方を探求し、看護管理者に求められる役割と責務について理解し、基本的責務を担うことができる管理能力を習得できる。 2. 人的資源活用論を現場の人材育成に役立て、リーダーシップの育成と看護サービスの質を保証することができる。 3. 看護管理に関する視野がひろがり、実践現場の課題を探求し、変革するスキルを身につける。						
授業計画	1) 看護管理を取り巻く外部環境（コンティンジェンシー理論） 2) 看護管理の概念と要素をつかむ （看護管理過程、看護管理論、組織変革理論） 3) 看護師の離職を予防する看護管理 4) キャリア開発（人材育成） 5) 看護管理者のコンピテンシー、看護管理能力 6) 労務管理と看護人事 7) 看護管理実践の場で起こる問題（1） 8) 看護管理実践の場で起こる問題（2） 9) 看護の質保証、リーダーシップ 10) 看護管理者の意思決定 11) 看護と経営、経営意識 12) 中間管理職への支援						
成績評価方法	クラスへの参加度、討議への貢献度						
参考図書	1. 中西睦子：看護サービス管理 第4版、医学書院、2013. 2. 看護管理学習テキスト（全8巻・別巻）、日本看護協会出版会、2013. 3. 井部俊子：ナースのための管理指標 MaIN2、医学書院、2011. 4. 原玲子：成果の見える病棟目標の立て方、日本看護協会出版会、2012. 5. 尾形裕也：看護管理者のための医療経済学、日本看護協会出版会、2009. 6. 小林亜美他：ナースマネジャーのための問題解決術、医学書院2014. 7. 虎の門病院看護部：看護管理者のコンピテンシー・モデル、医学書院、2013. 8. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2006. 9. P・ハーシィ 山本成二役：行動科学の展開 -人的資源の活用-、生産性出版、2006. 10. Edgar H. Schein 二村敏子訳：キャリア・ダイナミクス、白桃書房、2000.						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議ができるように準備をして授業に臨みましょう						

授 業 日 程 表

授業科目：看護教育・管理学特論Ⅱ

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月12日	水	6	看護管理を取り巻く外部環境 (コンティンジェンシー理論)	森木妙子	3 階 基 礎 看 護 学 講 座 共 同 研 究 室
2	4月12日	水	7	看護管理の概念と要素をつかむ (看護管理過程、看護管理論、組織変革理論)	森木妙子	
3	4月19日	水	6	看護師の離職を予防する看護管理	下田真梨子	
4	4月19日	水	7			
5	4月26日	水	6	キャリア開発(人材育成)、看護管理システム (PNS, BSC, 目標管理、Main2)	池内和代	
6	4月26日	水	7			
7	5月10日	水	6	看護管理能力	森木妙子	
8	5月10日	水	7	コンピテンシー	森木妙子	
9	5月17日	水	6	労務管理と看護人事	多田邦子	
10	5月17日	水	7	看護管理実践の場で起こる問題(1)	森木妙子	
11	5月24日	水	6	看護の質保証、リーダーシップ	田村眞智	
12	5月24日	水	7	看護管理実践の場で起こる問題(2)	森木妙子	
13	5月31日	水	6	看護管理者の意思決定	森木妙子	
14	5月31日	水	7	看護と経営、経営意識	森木妙子	
15	6月7日	水	6	中間管理職への支援	森木妙子	

授業コード	16805	授業科目名	看護教育・管理学演習			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	水・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○森木妙子（基礎看護学講座）088-880-2558. morikita@kochi-u. ac. jp) 山脇京子（臨床看護学講座 088-880-2531. y-kyou@kochi-u. ac. jp)						
オフィスアワー	山脇・森木（火曜日6限目：事前連絡要）						
学生の相談場所	山脇（7階山脇研究室） 森木（3階森木研究室）						
履修希望学生に求めるもの	日々の実践において、更によりよい実践へと発展できるように、課題意識をもつこと。また、文献の活用や論文クリティークなど、看護教育・管理への関心を高めておくこと。						
キーワード	看護教育 人材育成 看護継続教育 看護管理						
科目の目標（到達目標）	1) 看護教育並びに生涯・継続教育に関する課題について、文献レビュー、議論を通して明らかにする 2) 問題解決型の演習により、自己の研究課題を明確にする 3) 看護管理の研究の動向や重要と思われる概念について概観し、看護管理研究の動向をつかむことができる 4) 看護管理に関する視野が広がり、実践現場の課題を探求し、Rresearch mindの向上が図れる						
授業計画	1. 看護教育の現状分析と課題の探求（1） 2. 看護教育の現状分析と課題の探求（2） 3. 生涯教育・人材育成の現状分析と課題の探求（1） 4. 生涯教育・人材育成の現状分析と課題の探求（2） 5. 看護継続教育の現状分析と課題の探求（1） 6. 看護継続教育の現状分析と課題の探求（2） 7. 看護管理領域で行われている質的研究とは（1） 8. 看護管理領域で行われている質的研究とは（2） 9. 看護管理領域で行われている量的研究とは（1） 10. 看護管理領域で行われている量的研究とは（2） 11. 看護管理領域測定尺度（1） 12. 看護管理領域測定尺度（2） 13. 看護教育・看護管理で重要と思われる主要概念 14. 看護教育に関連した研究の推移 15. 看護管理に関連した研究の推移						
成績評価方法	授業における参加姿勢、プレゼン、レポート等を総合的に評価する						
教科書・参考図書	講義において適宜紹介する						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議ができるように準備をして授業に臨みましょう						

授 業 日 程 表

授業科目：看護教育・管理学演習

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	10月11日	水	6	看護教育の現状分析と課題の探求	山脇	3 階・7 階の 共同 研究室
2	10月11日	水	7		山脇	
3	10月18日	水	6	生涯教育・人材育成の現状分析と課題の探求	山脇	
4	10月18日	水	7		山脇	
5	10月25日	水	6	看護継続教育の現状分析と課題の探求	山脇	
6	10月25日	水	7		山脇	
7	11月1日	水	6	看護管理領域で行われている質的研究とは	森木	
8	11月1日	水	7		森木	
9	11月8日	水	6	看護管理領域で行われている量的研究とは	森木	
10	11月8日	水	7		森木	
11	11月15日	水	6	看護管理領域測定尺度	森木	
12	11月15日	水	7		森木	
13	11月22日	水	6	看護教育・管理で重要と思われる主要概念	山脇 森木	
14	11月22日	水	7	看護教育に関連した研究の推移	山脇 森木	
15	11月29日	水	6	看護管理に関連した研究の推移	山脇 森木	

授業コード	16807	授業科目名	保健医療情報学演習			単位数	2単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	火・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○栗原 幸男 (基礎看護学講座) (880-2524, kurihary@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	事前に予約をとること。						
学生の相談場所	保健医療情報学教室						
履修希望学生に求めるもの	各自の研究テーマを多角的に検討すること						
キーワード	保健医療情報学、情報表現、モデル化、数量統計手法、テキストマイニング						
科目の目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療情報の特性を理解する。 ・看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現 (モデル化) と分析方法を修得する。 						
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 情報学視点からの保健医療研究論 3回 保健医療情報の特性 4回 看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現 (モデル化) 5回 同上 6回 看護教育・看護管理における研究対象の情報表現 (モデル化) 演習 ~8回 同上 9回 保健医療情報の分析手法 10回 保健医療情報の分析方法の各自の研究課題への応用演習 ~14回 同上 15回 看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現 (モデル化) と分析方法についての総括						
成績評価方法	各自の発表と討論への寄与度で評価する。						
教科書・参考図書	1. Marion J. Ball, Kathryn J. Hannah and etc. Health Informatics: Nursing Informatics. Springer. 2. 古川俊之監修. 新版医学への統計学. 朝倉書店. 3. Rita D. Zielstorff (編)、西垣 克 (監訳). 看護とコンピュータ. 医歯薬出版. 4. ハーバートAサイモン著、稲葉元吉・吉原英樹訳. システムの科学. パーソナルメディア.						
履修上の注意	毎回の授業参加が成績評価になって行くので、出席に努めること。						

授 業 日 程 表

授業科目：保健医療情報学演習

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	10月3日	火	6	オリエンテーション	栗原幸男	看護学科棟保健指導室（2階）
2	未定*	火	6	情報学視点からの保健医療研究論	同上	
3	同上	火	7	保健医療情報の特性	同上	
4	同上	火	6	看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現（モデル化）	同上	
5	同上	火	7	同上	同上	
6	同上	火	6	看護教育・看護管理における研究対象の情報表現（モデル化）演習	同上	
7	同上	火	7	同上	同上	
8	同上	火	6	同上	同上	
9	同上	火	7	保健医療情報の分析手法	同上	
10	同上	火	6	保健医療情報の分析方法の各自の研究課題への応用演習	同上	
11	同上	火	7	同上	同上	
12	同上	火	6	同上	同上	
13	同上	火	7	同上	同上	
14	H29. 12. 19	火	6	同上	同上	
15	H29. 12. 19	火	7	看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現（モデル化）と分析方法についての総括	同上	

*：2回目以降の授業日は履修学生と相談する。

授業コード	16815	授業科目名	成人・老人看護学特論 I			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	金・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○山脇 京子 (臨床看護学講座) (880-2531, y-kyou@kochi-u.ac.jp) 溝渕 俊二 (臨床看護学講座) (880-2564, mizoshun@kochi-u.ac.jp) 青木 早苗 (臨床看護学講座) (880-2555, saoki@kochi-u.ac.jp) 林 昌子 (地域看護学講座) (880-2562, m-hayashi@kochi-u.ac.jp) 寺下 憲一郎 (臨床看護学講座) (880-2436, k-terashita@kochi-u.ac.jp)						
オフィスアワー	事前連絡により対応						
学生の相談場所	7階共同研究室および担当教員の研究室						
履修希望学生に求めるもの	主体的学習						
キーワード	クリティカルケア・フィジカルアセスメント						
科目の目標 (到達目標)	1. 急性臓器障害や侵襲的治療によって急激な健康破綻をきたした人の特徴を理解し、患者や家族がもつ看護問題および倫理問題を考える。 2. 急激な健康破綻をきたした人の健康アセスメントの手法を学び、エビデンスに基づいた看護実践の基盤を修得する。 3. 急激な健康破綻をきたした人の生命の維持、生理機能の回復、日常性の回復に向け、QOL向上を念頭においた看護を学ぶ。						
授業計画	1. クリティカルケア看護概論 2. クリティカルな場における看護理論 3. クリティカルな患者の病態と特徴 4. フィジカルアセスメント 5. 事例検討 6. プレゼンテーション						
成績評価方法	授業への参加度・プレゼンテーション・レポートから総合的に評価する						
教科書・参考図書	1. デブラ・J・リン・マッカーレ・ヴィガン/キャレン・K・カールソン編 卯野木健監訳：AACN (米国クリティカルケア看護師協会) クリティカルケア看護マニュアル原著第5版、エンゼビア・ジャパン、2007 2. 山勢博彰：クリティカルケア アドバンス看護実践、南江堂、2013 3. 池松裕子：クリティカルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ、2009 4. 寺町優子他：クリティカルケア看護 理論と臨床への応用、日本看護協会出版会、2010						
履修上の注意	学習効果を高めるために自己学習を行って授業に臨みましょう。						

授 業 日 程 表

授業科目：成人・老人看護学特論Ⅰ

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	6月16日	金	6	クリティカルケア看護概論	山脇京子	成人看護学講座成人看護学共同研究室（7階）
2	6月16日	金	7	クリティカルな場における看護理論（講義）	山脇京子	
3	6月23日	金	6	クリティカルな患者の病態と特徴	溝渕俊二	
4	6月23日	金	7	クリティカルな患者の病態と特徴	溝渕俊二	
5	6月30日	金	6	クリティカルな場における看護理論(演習)	山脇京子	
6	6月30日	金	7	フィジカルアセスメント	寺下憲一郎	
7	7月7日	金	6	フィジカルアセスメント	寺下憲一郎	
8	7月7日	金	7	フィジカルアセスメント	寺下憲一郎	
9	7月14日	金	6	事例検討	青木早苗	
10	7月14日	金	7	事例検討	林昌子	
11	7月21日	金	6	クリティカルケアにおける看護倫理	青木早苗	
12	7月21日	金	7	クリティカルケアにおける看護倫理	青木早苗	
13	7月28日	金	6	高齢者のクリティカルケア	林昌子	
14	7月28日	金	7	高齢者のクリティカルケア	林昌子	
15	8月4日	金	6	まとめ	山脇京子	

授業コード	16817	授業科目名	成人・老人看護学特論Ⅱ			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	水・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○大井 美紀（臨床看護学講座）（880-2554, mikioi@kochi-u.ac.jp） 齋藤 美和（地域看護学講座）（880-2551, saitomiw@kochi-u.ac.jp） 杉本 加代（地域看護学講座）（880-2559, sugikayo@kochi-u.ac.jp） 廣野 祥子（地域看護学講座）（880-2565, shirono@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー	金曜日5限（大井：要予約） *他の教員について学内メールでアポイントとる						
学生の相談場所	各領域の共同研究室						
履修希望学生に求めるもの	①成人・老人看護学演習（2）を履修する ②各回の授業の事前学習・課題の有無、使用テキスト等について、事前に担当教員に確認する						
キーワード	ヘルスプロモーション、慢性疾患、ケアマネジメント、介護予防、認知症、地域包括ケア 法的思考						
科目の目標（到達目標）	①地域で生活するあらゆる健康レベルにある人を対象としたヘルスプロモーションの概念を軸として、健康寿命の延長に資する保健行動の支援や包括的なアセスメントを学ぶ。 ②慢性疾患をもちながら地域で生活する人と家族のQOL向上を目指したケアとケアマネジメントを学ぶ ③介護保険制度等の社会資源を活用しながら、地域で生活する高齢者と家族のQOL向上を目指したケアと終末期ケアを学ぶ。 ④地域で生活する人に関連する人権擁護や法的思考について検討する						
授業計画	1. 地域生活者介護（概論） 2. 地域で生活する人々のヘルスプロモーションⅠ 3. 地域で生活する人々のヘルスプロモーションⅡ 4. 在宅におけるケアマネジメントⅠ 5. 在宅におけるケアマネジメントⅡ 6. 地域包括ケアⅠ 7. 地域包括ケアⅡ 8. 認知症ケアⅠ 9. 認知症ケアⅡ 10. 慢性疾患を持ちながら生活する人々への支援Ⅰ 11. 慢性疾患を持ちながら生活する人々への支援Ⅱ 12. 介護予防Ⅰ 13. 介護予防Ⅱ 14. 地域生活者看護における法的思考Ⅰ 15. 地域生活者看護における法的思考Ⅱ						
成績評価方法	各回のプレゼンテーション内容、討議内容、課題レポートの内容等により総合的に評価する						
教科書・参考図書	各回の授業において、適時紹介する						
履修上の注意							

授 業 日 程 表

授業科目：成人・老人看護学特論Ⅱ

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	6月7日	水	7	地域生活者への看護支援（概論）	大井美紀	6階精神看護学共同研究室他
2	6月14日	水	6	地域で生活する人々のヘルスプロモーションⅠ	大井美紀	
3	6月14日	水	7	地域で生活する人々のヘルスプロモーションⅡ	大井美紀	
4	6月21日	水	6	在宅におけるケアマネジメントⅠ	廣野祥子	
5	6月21日	水	7	在宅におけるケアマネジメントⅡ	廣野祥子	
6	6月28日	水	6	地域包括ケアⅠ	廣野祥子	
7	6月28日	水	7	地域包括ケアⅡ	廣野祥子	
8	7月5日	水	6	認知症ケアⅠ	杉本加代	
9	7月5日	水	7	認知症ケアⅡ	杉本加代	
10	7月12日	水	6	慢性疾患を持ちながら生活する人々への支援Ⅰ	齋藤美和	
11	7月12日	水	7	慢性疾患を持ちながら生活する人々への支援Ⅱ	齋藤美和	
12	7月19日	水	6	介護予防Ⅰ	杉本加代	
13	7月19日	水	7	介護予防Ⅱ	杉本加代	
14	7月26日	水	6	地域生活者看護における法的思考Ⅰ	大井美紀	
15	7月26日	水	7	地域生活者看護における法的思考Ⅱ	大井美紀	

授業コード	16819	授業科目名	成人・老人看護学演習（1）			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	金・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○山脇 京子（臨床看護学講座）（880-2531, kayoko-h@kochi-u.ac.jp） 大井 美紀（臨床看護学講座）（880-2554, mikioi@kochi-u.ac.jp） 青木 早苗（臨床看護学講座）（880-2555, saoki@kochi-u.ac.jp） 杉本 加代（地域看護学講座）（880-2559, sugikayo@kochi-u.ac.jp） 寺下憲一郎（臨床看護学講座）（880-2436, k-terashita@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー	事前連絡により対応						
学生の相談場所	7階共同研究室および担当教員の研究室						
履修希望学生に求めるもの	主体的な学習と探求心						
キーワード	質の高い看護実践能力						
科目の目標（到達目標）	病院や医療機関、地域・在宅で療養する成人・老人に対して、他職種と連携し看護専門職として継続した質の高い看護実践ができるための知識及び技術を学び、職能の向上に寄与する。						
授業計画	1. 糖尿病看護 2. 精神看護 3. がん看護 4. 集中ケア 5. 医療連携 6. 訪問看護 7. 自己の課題の探求 8. プレゼンテーション・まとめ						
成績評価方法	学習への取り組み方、プレゼンテーション、レポートより総合的に評価する						
教科書・参考図書	適宜提示する						
履修上の注意	学習効果を高めるために自己学習や課題を持って授業に臨みましょう						

授 業 日 程 表

授業科目：成人・老人看護学演習（1）

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	10月6日	金	6・7	糖尿病看護	山脇京子	看護学科棟7階・成人看護学共同研究室
2	10月13日	金	6・7	精神看護	大井美紀	
3	10月20日	金	6・7	がん看護	青木早苗	
4	10月27日	金	6・7	集中ケア	寺下憲一郎	
5	11月10日	金	6・7	医療連携	山脇京子	
6	11月17日	金	6・7	訪問看護	杉本加代	
7	11月24日	金	6・7	自己の課題の探求	個人ワーク	
8	12月1日	金	6・7	プレゼンテーション・まとめ	全員	
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

授業コード	16819	授業科目名	成人・老人看護学演習(2)			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	木・6,7
担当教員	○印は担当責任者 ○大井美紀（臨床看護学講座）（880-2554, mikioi@kochi-u.ac.jp） 齋藤美和（地域看護学講座）（880-2551, saitomiw@kochi-u.ac.jp） 杉本加代（地域看護学講座）（880-2559, sugikayo@kochi-u.ac.jp） 廣野祥子（地域看護学講座）（880-2565, shirono@kochi-u.ac.jp）						
オフィスアワー							
学生の相談場所	各領域の共同研究室						
履修希望学生に求めるもの	成人・老人看護学特論Ⅱを履修すること						
キーワード	研究論文 クリティーク 研究計画書						
科目の目標（到達目標）	成人・老人看護学領域における研究について、先行研究をクリティークすることにより最新の知見を得るとともに、自己の研究課題や研究方法を明確にし、研究計画を作成する。						
授業計画	1.2 研究方法論（概論）・リサーチクエスチョン 3.4 研究枠組・論文クリティーク 5.6 研究枠組・研究の動向 7.8 研究計画について 9.10 受講生のプレゼンテーション 11.12 研究計画書作成1 13.14 研究計画書作成2 15.16 研究計画書作成3						
成績評価方法							
教科書・参考図書	適宜紹介する						
履修上の注意	教室は事前に連絡する						

授業コード	16809	授業科目名	母子看護学特論 I (母性看護)			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	木・7
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代 (基礎看護学) 088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp 赤松恵美 (基礎看護学) 088-880-2718, akamatsu_m@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	各期における女性の健康問題とその予防 周産期の女性／胎児・新生児・家族を含めた諸問題						
科目の目標 (到達目標)	【目的】 1. 女性の思春期から妊娠・産褥期, 育児期, 更年期に至るまでの生涯の生涯にわたる心理的, 社会的, 成長発達についての諸理論を学ぶ。 2. 母子とその家族 (母性の発達や育児等) の課題と看護支援を学ぶ。 3. 女性の各期における諸問題を学び, その具体的看護支援のあり方と具体的看護の支援のあり方を追求する。 【目標】 1. 現代の女性の思春期から更年期に至るまでの母性看護実践の諸理論の活用方法が説明できる。 2. 母子とその家族を取り巻く諸問題を文献や事例を通して説明できる。 3. 女性の各期における諸問題を文献や事例を通して説明できる。						
授業計画	この授業はゼミ形式で行う。 各自が必要な看護を実践すること, 看護ケアの検討するために学生が提供した文献・事例等を検討し, エビデンスと理論の再認と再考を行う。 1. ガイダンス 2-3. 女性の思春期から更年期の課題を考える 4-5. 周産期における課題と看護支援を考える 6-7. 女性の各期における諸問題と看護支援を考える 8-10. 事例と理論の融合, その活用と可能性を考える 11-13. 母性看護における自己の課題と展望 14-15. プレゼンテーション						
成績評価方法	出席, プレゼンテーション, 課題レポート等による評価						
教科書・参考図書	必要に応じて提示する						
履修上の注意	必要な資料・文献を読み, 討議できるように準備をして授業に臨みましょう。しっかり発言をすること。						

授 業 日 程 表

授業科目：母子看護学特論Ⅰ（母性看護）

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月13日	木	7	オリエンテーション	池内和代 赤松恵美	看護学科棟母性共同研究室・5階
2	4月20日	木	7	女性の思春期から更年期の課題を考える	池内和代 赤松恵美	
3	4月27日	木	7	女性の思春期から更年期の課題を考える	池内和代 赤松恵美	
4	5月11日	木	7	周産期における課題と看護支援を考える	池内和代 赤松恵美	
5	5月18日	木	7	周産期における課題と看護支援を考える	池内和代 赤松恵美	
6	5月25日	木	7	女性の各期における諸問題と看護支援を考える	池内和代 赤松恵美	
7	6月1日	木	7	女性の各期における諸問題と看護支援を考える	池内和代 赤松恵美	
8	6月8日	木	7	事例と理論の融合，その活用と可能性を考える	池内和代 赤松恵美	
9	6月15日	木	7	事例と理論の融合，その活用と可能性を考える	池内和代 赤松恵美	
10	6月22日	木	7	事例と理論の融合，その活用と可能性を考える	池内和代 赤松恵美	
11	6月29日	木	7	母性看護における自己の課題と展望	池内和代 赤松恵美	
12	7月6日	木	7	母性看護における自己の課題と展望	池内和代 赤松恵美	
13	7月13日	木	7	母性看護における自己の課題と展望	池内和代 赤松恵美	
14	7月20日	木	7	プレゼンテーション	池内和代 赤松恵美	
15	7月27日	木	7	プレゼンテーション	池内和代 赤松恵美	

授業コード	16811	授業科目名	母子看護学特論Ⅱ（母性看護）			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	木・6
担当教員	○印は担当責任者 ○植田 味佐 池内和代（基礎看護学）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	海外の母子・家族情報 健康支援						
科目の目標（到達目標）	【学習目標】 母子の生活におけるQOLの向上を目指した看護の基礎的検討を行う。 【到達目標】 1. 国内外の母子・家族の健康に関する最新情報情報を共有する。 2. 母子・家族の健康支援のあり方を追求する。						
授業計画	1～15. Current topics in pediatric maternal nursing * 第1回目の講義は平成29年4月13日（木）18：10～19：40 （場所：母性共同研究室）とする						
成績評価方法	出席，プレゼンテーション，等による評価						
教科書・参考図書	必要に応じて提示する						
履修上の注意	特になし						

授 業 日 程 表

授業科目：母性看護学特論Ⅱ（母性看護）

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月13日	木	6	Current topics in pediatric maternal nursing	植田 味佐	看護学科棟母性共同研究室・5階
2	4月20日	木	6	同上	植田 味佐	
3	4月27日	木	6	同上	植田 味佐	
4	5月11日	木	6	同上	植田 味佐	
5	5月18日	木	6	同上	植田 味佐	
6	5月25日	木	6	同上	植田 味佐	
7	6月1日	木	6	同上	植田 味佐	
8	6月8日	木	6	同上	植田 味佐	
9	6月15日	木	6	同上	植田 味佐	
10	6月22日	木	6	同上	植田 味佐	
11	6月29日	木	6	同上	植田 味佐	
12	7月6日	木	6	同上	植田 味佐	
13	7月13日	木	6	同上	植田 味佐	
14	7月20日	木	6	同上	植田 味佐	
15	7月27日	木	6	同上	植田 味佐	

授業コード	16813	授業科目名	母子看護学演習（母性看護1）			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	火・7
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp 赤松恵美（基礎看護学）088-880-2718, akamatsu_m@kochi-u.ac.jp 小松輝子（臨床看護学）088-880-2228, teruko-komatsu@kochi-u.ac.jp 濱田佳代子（臨床看護学）088-880-2757, kayoko-h@kochi-u.ac.jp 吉村澄佳（臨床看護学）088-880-2537, yoshimuras@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科等5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修学生に求めるもの	対象者への倫理的配慮 能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	健康教育 地域 母子 家族						
科目の目標（到達目標）	【学習目標】 地域社会で生活する母子と家族の健康課題を発見し、支援できる能力を養う。 【到達目標】 1. 地域で生活する母子や家族との触れ合いを通して、個々人又は地域の健康課題が説明できる。 2. 健康教育に関する知識・技術を学び、実践できる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 健康教育のプログラムと特色を考える 3. 健康教育のプログラムと特色を考える 4. ～15. 健康教育の実際 実践) 子どもと家族のきずなを育むサポートプログラム 安田町健康祭り ペアレンティング教室 * 適宜講義日程は提示する						
成績評価方法	出席, プレゼンテーション, 課題レポート等による評価						
教科書・参考図書	必要に応じて提示する						
履修上の注意	母子サポートプログラム、安田町健康祭り、助産道場に参加すること						

授 業 日 程 表

授業科目：母子看護学演習（母性看護1）

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	入学後指定	火	7	オリエンテーション	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	看護学科棟母性共同研究室・5階
2	入学後指定	火	7	健康教育のプログラムと特色を考える	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
3	入学後指定	火	7	健康教育のプログラムと特色を考える	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
4	入学後指定	火	7	健康教育の実際	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
5	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
6	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
7	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
8	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
9	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
10	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
11	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
12	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
13	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
14	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
15	入学後指定	火	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	

授業コード	16813	授業科目名	母子看護学演習（母性看護2）			単位数	2/4単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	金・7
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp 赤松恵美（基礎看護学）088-880-2718, akamatsu_m@kochi-u.ac.jp 小松輝子（臨床看護学）088-880-2228, teruko-komatsu@kochi-u.ac.jp 濱田佳代子（臨床看護学）088-880-2757, kayoko-h@kochi-u.ac.jp 吉村澄佳（臨床看護学）088-880-2537, yoshimuras@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科等5階母性共同研究室及び母性実習室						
履修学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	母子看護学 文献検索 クリティーク						
科目の目標（到達目標）	【目的】 母子とその家族の支援に関する研修会等に参加して、深めた知識を共有し課題に対する看護職の役割を考える。 【目標】 1. 母子とその家族の支援に関する研修会等に参加し、個々の学修を共有することで、母子を中心とした課題を深めることができる。 2. 母子とその家族の現状と重要課題に対し文献的考察を加えて統合できる。						
授業計画	1回目：オリエンテーション 2～10回： 母子とその家族の支援に関する学会・研修会・研究会・等、に参加し、母子を中心とした課題や支援の方法について学びを深める。 11～15回： 母子とその家族の現状と課題に対し文献的考察を加えて統合する。 場所：母性看護学共同研究室						
成績評価方法	出席，学修内容，研修参加状況，研究計画書の提出，を総合的に評価する						
教科書・参考図書							
履修上の注意	授業内容スケジュールについては漸次修正する。						

授 業 日 程 表

授業科目：母子看護学演習（母性看護2）

講義回数	授業日 (年月日)	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	入学後指定	金	7	オリエンテーション	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	看護学科棟母性共同研究室・5階
2	入学後指定	金	7	母子とその家族の支援に関する学会・研修会等に参加し、母子を中心とした課題や支援の方法について学びを深める	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
3	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
4	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
5	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
6	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
7	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
8	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
9	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
10	入学後指定	金	7	母子とその家族の現状と課題に対し文献的考察を加えて統合する	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
11	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
12	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
13	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
14	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	
15	入学後指定	金	7	同上	池内和代・赤松恵美・ 小松輝子・濱田佳代子・ 吉村澄佳	

授業コード	16810	授業科目名	母子看護学特論 I (小児看護)			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	木・7
担当教員	○印は担当責任者 ○松岡真里 (臨床看護学講座 小児看護学) 088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	火曜日 5時限 事前に予約をしてください						
学生の相談場所	看護学科5階 松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	日本だけでなく海外での小児看護に関する取り組みを学ぶため、英語力が必要です。全てゼミ形式で実施しますので、文献を精読するだけでなく、自身の考え、気づき、学びをプレゼンテーションする力が必要です。						
キーワード	小児看護 成長発達、看護倫理、親子の相互作用、高度実践看護						
科目の目標 (到達目標)	<p>【目的】 成長発達理論、セルフケア理論など小児看護の実践を支える諸理論を看護実践に活用する方法を学ぶ。 一人ひとりの子どもがその子らしく育つことを支えるための高度実践看護の特徴と役割を理解する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長発達に関する理論を用いた事例の分析を通して、看護実践での活用方法が説明できる 2) 子どもの自己概念の発達、ストレス・コーピング、自己効力感、セルフケア、親子の相互作用などの諸理論を自己の体験した事例を通して説明できる。 3) 小児看護の実践を支える諸理論を学び、その子らしく育つことを支えるための高度実践看護の役割が説明できる 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明：小児看護学の知と実践のつながり 2-3 子どもと家族のヘルスプロモーション 子どもを取り巻く現代社会の制度や課題とヘルスプロモーション 4-5 成長発達に関する諸理論とその活用 6-7 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用 (1) 子どもの自己概念の発達の特徴と高度実践看護の役割 8-9 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用 (2) 子どものストレス・コーピングと高度実践看護への活用 10-11 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用 (3) 自己効力感、レジリエンスの概念と高度実践看護への活用 12-13 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用 (4) セルフケア理論と高度実践看護への活用 14-15 子どもと家族の看護実践の基盤となる諸理論とその活用 (5) 子育て期の家族、親子の相互作用の特徴と高度実践看護の役割 <p>*上記を通じた学びと高度実践看護の役割に対する自己の考察を、研究論文や図書を活用してレポートと視、提出する。</p>						
成績評価方法	授業の際に提示された資料40%、参加状況40%、およびレポート20%により総合的に評価します						
教科書・参考図書	<p>【参考図書】</p> <p>C Betz, M Hunsberger, S Wright:Family-Centered Nursing Care of Children 2nd. Ed. W Votroubek & A Tabacco:Pediatric Home Care for Nurses A Family-Centered Approach 3rd. ED. 遠藤辰雄 (1997) セルフエスティームの心理学, ナカニシヤ出版 ラザルス・フォルクマン (1996) ストレスの心理学, 実務教育出版 鈴木和子・渡辺裕子 (2014) 家族看護学第4版, 日本看護協会出版会 ドロセア E. オレム (2005) オレム看護論—看護実践における基本概念, 医学書院 その他, 適宜紹介します</p>						
履修上の注意	第一回目は、4月20日(木)に行います。受講希望者は、看護学科棟5階松岡研究室にきてください。詳細の日程は後日提示します。英語文献を中心にゼミを進めます。						

授業コード	16812	授業科目名	母子看護学特論Ⅱ（小児看護）			単位数	2 単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	木・6
担当教員	○印は担当責任者 ○松岡真里（臨床看護学講座 小児看護学）088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	火曜日 5時限 事前に予約をしてください						
学生の相談場所	看護学科5階 松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	日本だけでなく海外での小児看護に関する取り組みを学ぶため、英語力が必要です。全てゼミ形式で実施しますので、文献を精読するだけでなく、自身の考え、気づき、学びをプレゼンテーションする力が必要です。						
キーワード	小児看護 看護倫理、小児医療、子どもと家族中心のケア、小児緩和ケア、高度実践看護						
科目の目標（到達目標）	<p>【目的】 子どもの権利と小児医療を取り巻く現状と課題と、それに関連する保健・福祉・教育システムの状況と医療の連携、医療をうけるPatient & Family-Centered Careについて学ぶことを通して、高い倫理観を備えた看護実践について理解する。 小児緩和ケアについて学び、健康問題をもつ子どもと家族にとって有益な医療のあり方及び支援システム、高度実践看護の役割について理解する</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現代の小児医療・保健・福祉に潜む倫理的課題を説明することができる。 2) 子どもと家族を擁護する高度実践看護の役割を説明することができる 3) Patient & Family-Centered Careの中心概念を学び、医療における子どもと家族中心のケアシステムの実現に向けた高度実践看護の役割を説明することができる 4) 健康問題をもつ子どもと家族の体験する苦痛緩和の対するケアにおける課題と高度実践看護について考察できる 5) 子どもと家族を取り巻く保健・福祉・教育の状況を学び、医療との連携のあり方と高度実践看護の役割を説明することができる 						
授業計画	1-2 Children & Family-Centered Careの理念と医療のあり方 3-4 小児医療・保健・福祉・看護における倫理 子どもの権利条約、小児医療・保健・福祉・看護における倫理的課題 5-6 近年の小児医療・保健の現状と看護の課題（1） 周産期・新生児医療、小児在宅医療など 7-8 近年の小児医療・保健の現状と看護の課題（2） 小児救急医療、虐待、育児支援（親の育児ストレスを含む）など 9-10 近年の小児医療・保健の現状と看護の課題（5） 小児緩和ケア（苦痛の緩和を含む）など 10-11 慢性疾患のある子どもと家族への看護 12-13 障がいのある子どもと家族への看護 14-15 まとめのプレゼンテーション 子どもと家族を取り巻く保健・福祉・教育における医療・看護のあり方						
成績評価方法	授業の際に提示された資料40%、参加状況40%、およびレポート20%により総合的に評価します						
教科書・参考図書	<p>【参考図書】 C Betz, M Hunsberger, S Wright: Family-Centered Nursing Care of Children 2nd. Ed. W Votroubek & A Tabacco: Pediatric Home Care for Nurses A Family-Centered Approach 3rd. Ed. A Goldman, R Hain, S Liben: Oxford Textbook of Palliative Care for Children 2nd. Ed. その他、必要に応じて紹介します</p>						

履修上の注意	オリエンテーションは、小児看護学特論Ⅰの第一回目（4月20日（木））に行います。受講希望者は、看護学科棟5階 松岡研究室にきてください。詳細の日程は後日提示します。 英語文献を中心にゼミを進めます。
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業コード	16814	授業科目名	母子看護学演習 I (小児看護)			単位数	2単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	火・7・金・7
担当教員	○印は担当責任者 ○松岡真里 (臨床看護学講座 小児看護学) 088-880-2536 mmatsuoka@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	金曜日 5時限 事前に予約をしてください。						
学生の相談場所	看護学科5階 松岡研究室						
履修希望学生に求めるもの	実際に、学外の関心領域の医療・福祉施設での演習を行い、子どもや家族へのケアに取り組みます。積極的に子どもや家族、関連職種の方と関わりをもち、その中から課題を探求する力が求められます。 積極的に育児支援や医療ニーズが高い子どもと家族の支援に関する研究会や研修会に参加すること。また、関連する文献を精読し課題を分析する力が求められます。 小児看護・小児医療・保健に関連する海外の論文を読み、クリティークします。英語力と文献クリティークの力が重要です。						
キーワード	子どもと家族中心のケア、セルフケア支援、育児支援、小児緩和ケア、小児在宅ケア						
科目の目標 (到達目標)	【目的】 1) 子どもと家族を中心とした保健医療福祉及び看護実践の理念、方法、課題について、慢性疾患や障がいのある子どもと家族を中心に、演習や文献検討をとして学ぶ。 2) 育児支援を要する家族や発達上に課題を有する子ども及び医療ニーズが高い子どもと家族を支える多職種協働における看護の役割を考える。 3) 小児看護、小児医療・保健に関する海外の先行研究をクリティークし、最新の知見を得て、課題を検討する。 【目標】 1) 子どもと家族を中心とした保健医療福祉、看護実践について、最新の知識や技術を修得することができる 2) 医療ニーズが高い疾患や障がいの子どもと家族の事例を通して、子どもと家族中心の保健医療福祉及び看護実践上の課題を述べることができる 3) 小児看護、小児医療・保健に関する海外の先行研究をクリティークし、研究上および現代の小児看護を取り巻く課題を述べるができる						
授業計画	以下のように進める 1回目：オリエンテーション 2～14回：学外での演習 1) 糖尿病キャンプ、子どものホスピス活動への参加および関心領域の医療・福祉施設での演習を行い、得られた学びを文献検討を交えて統合し、子どもや家族への関わりや看護実践の評価と今後の課題を検討する。 2) 育児支援を要する家族や発達上の課題を有する子ども及び医療ニーズが高い子どもと家族の抱えるニーズについて、勉強会や研修会への継続参加により得られた学びを文献的考察を加えて統合する 3) 小児看護学で定期的開催される英文抄読回 (Pediatric Journal Club) に参加し、関心領域の海外文献を選定し、クリティークを行いプレゼンテーションする。						
成績評価方法	PJC資料20%、参加状況40%、およびレポート40%により総合的に評価します						
教科書・参考図書	必要に応じて提示します						
履修上の注意	課題に関連する文献を主体的に購読してください 第一回目の日程及び詳細日程については、受講生の希望と受け入れ施設との調整の上で決定します。 糖尿病キャンプは、8月夏期休み期間に行われます。また、準備等で5月頃より学外での研修への参加が求められます。						

授業コード	16851	授業科目名	助産学特論			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	月・2
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学講座） 088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp 小松輝子（臨床看護学講座）088-880-2228, teruko-komatsu@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟6階 実践助産 1						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	助産の概念 助産診断						
科目の目標（到達目標）	1. 助産実践の基盤となる概念及び理論と、周産期の母子と家族の健康増進を促すためのEvidence-Based-Midwifery（以下EBMとする）の方法論について理解する。 2. 助産実践の基盤となる概念及び理論を基に助産に関わる現象や対象者の理解を深めるためのアセスメント能力を高め、助産実践への適応を探求する。 3. 助産過程の展開を通して、経過の診断・予測及び正常逸脱の判断ができる能力を養う。						
授業計画	1. 助産の概念 リプロダクティブヘルス/ライツ 2. 助産と倫理 3. 助産の歴史 助産師教育の変遷 4. 助産診断・技術学の概要 5. 助産診断過程 I 6. 助産診断過程 II 7. 助産診断過程 III 8. 評価						
成績評価方法	授業への参加姿勢、筆記試験、レポート等を総合的に評価する						
教科書・参考図書	助産学講座1・5・6 医学書院 助産師基礎教育テキスト1 日本看護協会出版会 実践マタニティ診断 第3版 日本看護診断・実践研究会 医学書院 【参考書・参考文献】 助産学研究入門 WHO勧告に見る望ましい周産期ケアとその根拠 WHOの59カ条お産のケア実践ガイド 助産師の意思決定 EBM楽しい演習帳 パース・リポーン—よみがえる出産—						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議できるように準備をして授業に臨みましょう						

授業コード	16852	授業科目名	ウイメンズヘルス論			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	火・2
担当教員	○印は担当責任者 ○濱田佳代子（臨床看護学講座）088-880-2757, kayoko-h@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	5階母性共同研究室及び担当教員研究室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	女性、ライフサイクル、セクシャルヘルス、性、家族計画、避妊						
科目の目標（到達目標）	学習目標： 1. 性/生殖に関わる身体の構造と機能を理解する。 2. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題を理解する。 3. 性/生殖の健康リスク回避行動の支援に必要な知識を習得する。						
授業計画	1. 性/生殖に関する解剖と生理 I 2. 性/生殖に関する解剖と生理 II 3. 女性のライフサイクル各期の特徴 4. 女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患 5. セクシュアルヘルスケア I（家族計画の概要） 6. セクシュアルヘルスケア II（避妊の原理と方法） 7. セクシュアルヘルスケア III（個別相談と健康教育）						
成績評価方法	試験・出席状況						
教科書・参考図書	助産学講座2・3・4・5 医学書院 助産師基礎教育テキスト2・6 日本看護協会出版会 木村好秀ほか：家族計画指導の実際 医学書院 新・受胎調節指導用テキスト 生涯人間発達学 女性の生涯発達とアイデンティティ 助産師業務要覧（基礎編・実践編）						
履修上の注意	事前学習を行い授業に臨みましょう 医学部講義（実習棟3階第1講義室）						

授業コード	16861	授業科目名	助産診断・技術学基礎			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	月・4
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp 溝渕俊二（臨床看護学講座）088-880-2564, mizoshun@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟6階 実践助産 1						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	周産期 感染症 免疫 検査 薬剤						
科目の目標（到達目標）	1. 生殖に関する要因として、感染・遺伝・免疫・について学ぶ。 2. 周産期の母子に関わる臨床検査（CTG・超音波等）について学ぶ。 3. 周産期に関する薬剤について学ぶ。						
授業計画	1. 周産期の主な感染症、予防接種、母子感染 2. 免疫のしくみ・周産期の免疫学的特性 I 3. 免疫のしくみ・周産期の免疫学的特性 II 4. 遺伝のしくみ・遺伝子、染色体の異常 I 5. 周産期に関する検査（超音波など） 周産期に関する薬剤（分娩期） 6. 胎児心拍数モニタリングの判読 7. 周産期に関する薬剤（妊娠期・産褥期） 8. 評価						
成績評価方法	授業への参加姿勢、筆記試験						
教科書・参考図書	助産学講座2・3・6・7 医学書院 助産師基礎教育テキスト4 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編）文光堂 【参考書・参考文献】 プリンシプル産科婦人科学 第2版 増崎 英明：臨床産科超音波診断 メディカ出版 藤森 敬也：胎児心拍数モニタリング講座 改訂第2版 メディカ出版						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議できるように準備をして授業に臨みましょう						

授業コード	16862	授業科目名	助産診断・技術学特論 I			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	水・1,2
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp 小松輝子（臨床看護学講座）088-880-2228, teruko-komatsu@kochi-u.ac.jp 杉本加代（地域看護学講座）088-880-2559, sugikayo@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟6階 実践助産 1						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	妊娠・産褥の生理 新生児の生理						
科目の目標（到達目標）	1. 妊娠・産褥、新生児の生理的経過とケアを理解する。 2. 周産期の母子の健康に関わる栄養について学ぶ。						
授業計画	1. 妊娠の生理 I 2. 妊娠の生理 II 3. 母子の栄養と運動（歯科保健） 4. 妊婦のケア 5. 正常産褥の生理 I 6. 正常産褥の生理 II 7. 新生児の生理と異常疾患 8. 評価						
成績評価方法	授業への参加姿勢、レポート、プレゼンテーション、筆記試験を総合的に評価						
教科書・参考図書	助産学講座3・6・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編）文光堂 【参考書・参考文献】 プリンシプル産科婦人科学 第2版 病気が見えるVol.10産科 改訂第3版						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議できるように準備をして授業に臨みましょう						

授業コード	16863	授業科目名	助産診断・技術学特論Ⅱ			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	水・1
担当教員	○印は担当責任者 ○赤松恵美（基礎看護学講座）088-880-2718, akamatsu_m@kochi-u.ac.jp 松岡真里（臨床看護学講座）088-880-2536, mmatsuoka@kochi-u.ac.jp 吉村澄佳（臨床看護学講座）088-880-2537, yoshimuras@kouchi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	5階母性共同研究室及び担当教員研究室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	分娩 産婦 新生児 乳幼児 ケア						
科目の目標（到達目標）	学習目標： 1. 分娩介助技術の原理と方法を理解する。 2. 産婦および 出生直後の新生児のケアを展開できる能力を養う。 3. 乳幼児の特性と成長・発達を理解する。						
授業計画	1～4. 分娩の生理Ⅰ・Ⅱ（分娩介助法） 5・6. 産婦のケアⅠ・Ⅱ 7・8. 出生直後の新生児のケア（観察と診断） 9・10. 乳幼児の特性と乳幼児健診（予防接種） 11・12. 乳幼児の成長・発達Ⅰ（遊び・事故予防対策） 13・14. 乳幼児の成長・発達Ⅱ（栄養・食事）						
成績評価方法	試験・出席状況						
教科書・参考図書	助産学講座3・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト5・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編） 文光堂 実践マタニティ診断第3版 日本看護診断・実践研究会 医学書院 仁志田 博司：新生児学入門第3版 医学書院						
履修上の注意	事前学習を行い授業に臨みましょう						

授業コード	16864	授業科目名	助産診断・技術学演習			単位数	1単位
授業種別	演習	履修開始年次	1年次	開講時期	通年	曜日・時限	木・2
担当教員	○印は担当責任者 池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp ○赤松恵美（基礎看護学講座）088-880-2718, akamatsu_m@kochi-u.ac.jp 小松輝子（臨床看護学講座）088-880-2228, teruko-komatsu@kochi-u.ac.jp 濱田佳代子（臨床看護学講座）088-880-2757, kayoko-h@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	5階母性実習室及び6階実践助産講義室 1						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	助産診断技術 助産ケア 分娩介助 母乳哺育 地域母子保健活動						
科目の目標（到達目標）	学習目標： 1. 周産期の母子の健康状態と成長・発達を診断し、異常との識別ができる能力を養う。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常経過を促進し女性の意思を尊重した支援ができる能力を養う。 3. EBMの方法論に基きケアを展開できる能力を養う。 4. 母子相互作用を高め、親役割を推進できるケアを提供できる能力を養う。 5. 母乳哺育についての原理と方法を理解する。 6. 補完代替療法について理解する。 7. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応ができる能力を養う。（新生児蘇生、会陰縫合術及び超音波診断） 8. 地域助産学実習より地域母子の実態を探り【助産道場】につなげる。						
授業計画	1. 妊婦診察技法（外診法） 2. 妊娠診察技法（評価） 3. 妊娠診察技法（骨盤外計測法） 4・5. 会陰切開・裂傷縫合、演習 6. 遺伝のしくみ・遺伝子、染色体の異常 II 7. 超音波診断技法 8～14. 受胎調節実地指導演習（プレゼンテーション） 15. 褥婦・新生児のケア 16・17. 乳房管理（母乳育児の原理と方法）、乳房管理の実際 18・19. 新生児の観察・沐浴 20. 乳腺疾患の見分け方 21・22. 母子と補完代替医療、産婦のケア（産痛緩和・東洋医学） 23～28. 過疎地域体験演習 29. NICUとハイリスク新生児のケア 30～33. 新生児蘇生法(NCPR) 公認講習会参加：専門コース(Aコース) 34～45. 分娩介助演習・分娩介助演習チェック（9回） フリースタイル分娩（1回）演習チェック（2回）						
成績評価方法	演習評価・出席状況						
教科書・参考図書	助産学講座 2・6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト 2・4・5・6 日本看護協会出版会 仁志田 博司：新生児学入門第3版 医学書院 田村 正徳：新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社 荒木 勤：最新産科学（正常編） 文光堂 母乳育児支援ガイド 母乳育児支援スタンダード						
履修上の注意	事前学習を行い授業に臨みましょう						

授業コード	16865	授業科目名	周産期ハイリスク論			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	金・2
担当教員	○印は担当責任者 池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp ○赤松恵美（基礎看護学講座）088-880-2718, akamatsu_m@kochi-u.ac.jp 小松輝子（臨床看護学講座）088-880-2228, teruko-komatsu@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降、要予約						
学生の相談場所	5階母性実習室及び6階実践助産講義室1						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	妊娠期 分娩期 産褥期 新生児 異常 ケア						
科目の目標（到達目標）	学習目標： 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について学ぶ。 2. 異常発生時の対応及びアセスメントとケアを展開できる能力を養う。						
授業計画	1. 妊娠期の異常（DM・TPD・PIH等） 2. 分娩期の異常（巨大児・肩甲難産・CPD・遷延分娩・軟産道損傷等） 3. 産褥期の異常 （子宮復古不全・血栓塞栓症・妊娠高血圧症候群・産褥期感染症等） 4. 妊娠期の異常のケア 5. 分娩期の異常のケア 6. 産褥期の異常のケア 7. 新生児の異常のケア						
成績評価方法	試験・出席状況						
教科書・参考図書	助産学講座6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・5・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（異常編）文光堂						
履修上の注意	事前学習を行い授業に臨みましょう						

授業コード	16866	授業科目名	周産期医療システム論			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	未定
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp 栗原幸男（基礎看護学講座）088-880-2228, kurihary@kochi-u.ac.jp 奥谷文乃（地域看護学講座）088-880-2559, okutanif@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟6階 実践助産 1						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	母子保健行政 情報ネットワーク 生活環境 DV・子ども虐待						
科目の目標（到達目標）	1. 世界と日本の周産期医療の現状と体制、看護を理解する。 2. 周産期医療に関わる制度・政策の基礎的知識を習得する。 3. 周産期の母子の安全確保に向けた情報ネットワーク構築を学ぶ。 4. 地域で生活する母子と家族の健康を支援するために必要な知識を習得する。						
授業計画	1. 周産期医療の現状（世界） 2. 国際化時代の地域母子保健 3. 母子保健行政と関係法規 4. 情報ネットワークの構築（高知の周産期医療） 5. 周産期と生活環境（喫煙・環境汚染・電磁波・放射線等） 6. 性暴力を受けた女性の看護（DV含）・子供虐待(1) 7. 性暴力を受けた女性の看護（DV含）・子供虐待(2) 8. 評価						
成績評価方法	授業への参加姿勢、レポート、プレゼンテーション、筆記試験を総合的に評価						
教科書・参考図書	助産学講座1・3・9 医学書院 助産師基礎教育テキスト1 日本看護協会出版会 母子の主なる統計2013 母子保健事業団 わが国の母子保健 平成26年 母子保健研究会 【参考書・参考文献】 助産師業務用覧（基礎編・実践編） 臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議できるように準備をして授業に臨みましょう						

授業コード	16867	授業科目名	母子精神病理学			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	金・3
担当教員	○印は担当責任者 ○小松輝子（臨床看護学講座）088-880-2228, teruko-komatsu@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	5階母性共同研究室及び担当教員						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	親子関係 不妊症 不育症 周産期 うつ病 精神疾患						
科目の目標（到達目標）	学習目標： 1. 女性のライフサイクルにおけるメンタルヘルスについての知識を習得する。 2. 親子関係に関する精神病理の知識を習得し、親子の心の問題に対するアセスメントとケアを学ぶ。						
授業計画	1. 産前・産後の精神疾患（産前・産後のうつ病、産褥精神病、精神疾患合併妊娠等） 2. 女性のライフサイクルとメンタルヘルス（摂食障害、パニック障害、PMS、DV等） 3・4. 不妊症・不育症治療および治療後の心理的問題 家族を含めた支援と他機関との連携 GW「出生前診断を考える妊婦の意思決定過程を支援」 プレゼンテーション 5. 親子関係をめぐる問題（母子・父子関係） 6. 親子関係をめぐる問題（児童虐待） 7. ペリネイタルロスとグリーフケア （流産・死産の悲嘆反応、子供の喪失を含む）						
成績評価方法	プレゼンテーション・試験・出席状況						
教科書・参考図書	助産学講座4・6・7 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・5・6 日本看護協会出版会 新道 幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院						
履修上の注意	事前学習を行い授業に臨みましょう						

授業コード	16868	授業科目名	コンサルテーション論			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第1学期	曜日・時限	金・4
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟6階 実践助産第1講義室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	カウンセリング コーチング 健康教育						
科目の目標（到達目標）	1. 健康問題の解決や健康課題の達成に必要な知識を学ぶ。 2. 指導者としてカウンセリングやコーチングなどのコミュニケーションスキルを学ぶ。 3. 助産師の行う指導について、学ぶ。 4. 妊娠中から産後までの健康教育について、学ぶ。						
授業計画	1. カウンセリングとコーチング (1) 2. カウンセリングとコーチング (2) 3. カウンセリングとコーチング (3) 4. コミュニケーション 5. 助産師の行う相談・教育・援助の基本助産師の行う相談・教育・援助の基本健康教育の実際（教育方法） 6. 指導の実際（集団指導・個別指導） 7. 指導の実際（出生前教育と育児指導） 8. 評価						
成績評価方法	授業への参加姿勢、レポート、プレゼンテーションを総合的に評価						
教科書・参考図書	助産学講座5 医学書院 助産師基礎教育テキスト4 日本看護協会出版会 【参考書・参考文献】 カウンセリングとコンサルテーション 辻村英夫 産む力の咲かせ方 出産準備クラスにおけるエンパワーメント						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議できるように準備をして授業に臨みましょう						

授業コード	16881	授業科目名	地域母子保健診断学			単位数	1単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	未定
担当教員	○印は担当責任者 ○池内和代（基礎看護学講座）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降，要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟6階 実践助産第1講義室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	地域医療 周産期医療体制 母子保健活動 助産師の役割						
科目の目標（到達目標）	1. 日本の周産期医療における現状と課題について知る。 2. 他の職種や組織との連携及びセルフヘルプグループへの支援について理解する。 3. 母子保健に関する助産師の役割について学び、助産道場につなげる。						
授業計画	1. 産期医療における助産師活動（院内助産・助産師外来） 2. 周産期医療体制・母子保健制度と母子保健施策 （日本の産科・新生児の現状、高知の現状） 3. 母子保健活動の展開 4. コミュニケーション 5. 地域医療・プライマリケア 総論 6. 地域医療と公的病院 7. GW：地域における助産師の役割（助産道場）※グループでテーマを決める 8. 評価						
成績評価方法	授業への参加姿勢、レポート、プレゼンテーションを総合的に評価						
教科書・参考図書	助産学講座4・9・10 医学書院 助産師基礎教育テキスト2・3 日本看護協会出版会 助産師業務用覧（基礎編・実践編） 日本看護協会出版会 母子の主なる統計2013 母子保健事業団 わが国の母子保健 平成26年 母子保健研究会 【参考書・参考文献】 助産外来・院内助産所 計画・開設・運営マニュアル 臨床助産師必携—生命と文化をふまえた支援—						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議できるように準備をして授業に臨みましょう						

授業コード	16882	授業科目名	助産管理学			単位数	2単位
授業種別	講義	履修開始年次	1年次	開講時期	第2学期	曜日・時限	金・4
担当教員	○印は担当責任者 ○池内 和代（基礎看護学講座）088-880-2523, kazuyo@kochi-u.ac.jp						
オフィスアワー	午後5時以降, 要予約						
学生の相談場所	医学部看護学科棟6階 実践助産第1講義室						
履修希望学生に求めるもの	能動的に学ぶ姿勢						
キーワード	助産管理 法的責任 医療事故・災害						
科目の目標（到達目標）	<p>【目的】 助産実践の場における助産管理の実際に対する考察を通して、場の特性に応じた管理を行う能力や、多職種の協働及び保健・医療・福祉等の関連機関の連携に必要な調整を行う能力を養う。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の機能と方法が理解できる。 2. 周産期に関する法的責任を学び、自立した専門職としての役割が考察できる。 3. 医療事故、災害時等の助産管理が理解できる。 4. 管理実習（対象：医療機関、助産所） 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の機能と方法 2. 組織行動のマネジメント（1） 3. 組織行動のマネジメント（2） 4. 助産管理の実際（産科診療所の管理） 5. 助産管理と関係法規 6. 周産期の医療事故とリスクマネジメント（1） 7. 周産期の医療事故とリスクマネジメント（2） 8. 災害時の助産管理（1） 9. 災害時の助産管理（2） 10. 病院における助産業務管理 11～15. 助産所管理の実際（助産所見学） 助産所における助産業務管理 （助産サービスの評価・診療報酬） 						
成績評価方法	授業への参加姿勢、レポート、プレゼンテーションを総合的に評価						
教科書・参考図書	<p>助産学講座10 医学書院 助産師基礎教育テキスト3 日本看護協会出版会 助産師業務要覧（基礎編・実践編）日本看護協会出版会</p> <p>【参考書・参考文献】 臨床助産師必携—生命と文化をふまえた支援—</p>						
履修上の注意	授業テーマにそって必要な資料・文献を読み、討議できるように準備をして授業に臨みましょう						